

社員一人ひとりがいきいきと能力を発揮できるよう、 フィジカル・メンタル両面から 健康をサポートしています。

ヤスハラケミカルでは、社員がいきいきと働く職場環境をつくるために、「働き方改革」への取り組みを進めています。

今回はその一貫として取り組んでいる「健康への意識向上」についてご紹介します。



品質環境保安室 室長 藤岡 辰樹



総務部 総務課 課長 妹尾 巨

■「品質環境保安室」と「総務課」健康サポートの役割分担

当社では、主にフィジカル的なサポートを「品質環境保安室」が、メンタル的なサポートを「総務課」が担当しており、様々な取り組みの積み重ねで総合的に健康への意識向上を目指しています。

「品質環境保安室」は、社員の健康状態をしっかりと見守ることも重要な業務と考えており、法令に則った定期健康診断受診率100%の維持をはじめ、健診結果のフォローアップとして、保健師からのフィジカル的な指導の推奨、産業医から再検査の指示があった方には個別のフォローを実施しています。また、休憩時間等を利用しての軽運動を促したり、リレーマラソンやウォーキングなどの運動習慣の呼びかけなど、社員の健康づくりへのさまざまな取り組みを行っています。

一方「総務課」は、メンタル的な悩みや不安の相談窓口として、社外の保健師による健康面談を各事業所で年2回開催しています。この健康面談では、メンタル的な相談はもちろん、日々の健康に関する相談なども幅広く受け付けています。会社では話したくないような内容でも第三者へ相談することで、ストレスを軽減する一次予防に役立てています。



■ ヤスハラケミカル式「健康診断結果分析ツール」の導入

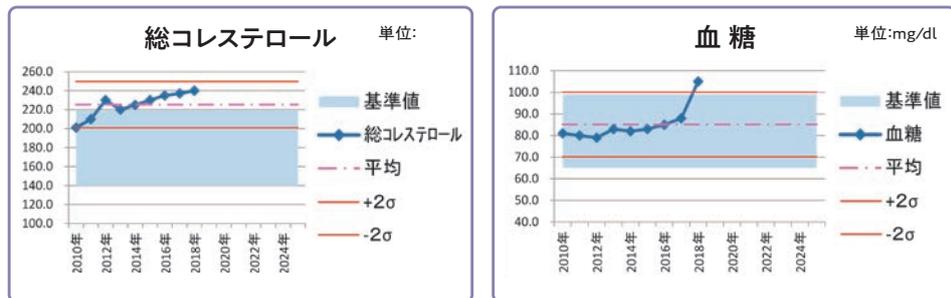
健康状態は、健康診断による多様なデータから読み解くことが一般的ですが、血圧や血糖値などの適正値は個人の体質や遺伝的要素などで異なるため、直近の受診データだけで判断するには不十分といえます。

そこでヤスハラケミカルでは、一人ひとりの長期的な変化や自身の体質を含めた異常を社員自らが早めに認識できるよう、当社オリジナルの「健康診断結果分析ツール」を作成しました。

「健康診断結果分析ツール」は、血糖値や中性脂肪など、受診結果で得られた数値を社員自らが打ち込むと、画面上に各種データをグラフで表示するというツールです。一般的な受診結果では個別の数字データが3年程度提供されるだけなのに対し、これは最長15年という長期間のデータ推移をグラフで見える化するので、少しずつ上昇する傾向にも早めに気づいたり、急激な上下動があった場合もすぐに自分で確認できるというメリットがあります。

導入は2019年9月からで、本年度はアンケート調査を実施し、活用率をはじめ使い勝手や有効な活用法などを探り、システムをブラッシュアップしていく予定です。

健康診断結果
イメージ



■ 「ストレスチェック」の導入と活用

メンタルヘルスへの取り組みとして当社は、全社員に対する「ストレスチェック」を2014年から採り入れていますが、2015年12月より労働安全衛生法に基づくストレスチェック制度が施行されたことを受け、内容を見直し、現在は「品質環境保安室」が推進しています。

当社の「ストレスチェック」は、使いやすいユーザーインターフェースで、質問に回答すれば、即座に結果が出力され、自身のストレス状態を把握することができ、メンタルヘルス不調予防に役立てることができるシステムになっています。

また、集団ごと（事業所や部署単位）のストレスチェックの集計・分析により各職場の傾向を可視化することで、職場環境の改善に役立てています。

■ 「ハラスメント研修」の実施

2020年6月からのハラスメント規制法施行をきっかけに、当社でも各事業所の管理職層を対象とした「職場のハラスメント研修」を新たに実施します。

研修ではグループスタディ形式で参加者がコミュニケーションを取りながら規制法の内容への理解を深めます。またこれに加え、弁護士先生によるパワーハラスメントの事例や対策などのケーススタディを伝える研修も計画しています。これらの研修をとおして、管理者のパワーハラスメントへの意識と理解を高めていきます。そして職場のコミュニケーション環境をより良くすることで、従業員にとって働きやすい労働環境の向上につなげていきたいと考えています。

■ 社員の「健康」をさらにサポートしていくために

これまでご紹介してきたように、当社ではフィジカルとメンタルの両面においてたくさんの「気づきの場」と「相談窓口」を用意しています。そしてそれらはすべて、社員一人ひとりが自主的に行動することで、悩みや不安を解消していくことを重視しています。

これからも、こうしたサポート活動をさらに使い勝手の良いものに改善していく予定です。次の段階では、相談窓口の存在や利用法の周知を広げ、活用の輪を広げていくことで、できるだけ気軽に利用できる雰囲気づくりも整えていきます。そして自らが健康を意識し行動していく人を増やすことで、職場も家庭生活も明るく活力のあるものにしていきたいと考えています。